

図們江地域開発計画 輸送ワーキンググループ会議

ERINA調査研究部研究員 川村和美

12月5日に北京で開催された図們江地域開発計画輸送ワーキンググループ会議に参加した。これはUNDP（国連開発計画）が主催する会議で、中国、朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）、モンゴル、韓国、ロシアの5カ国の代表者にESCAP、そして韓国海洋水産開発院（KMI）からの参加者を加えた約30名が出席した。

会議は過去1年間の図們江地域・北東アジアにおける輸

送分野の進展・協力状況を各国代表者が報告する第1セッション、ESCAPから道路を中心とした北東アジアの輸送ネットワークに関する調査・研究報告を中心とする第2セッション、図們江地域の円滑な国境通過に向けた意見交換を行った第3セッションから構成され、UNDP図們江地域開発事務局のTsogtsaikhan Gombo氏の進行により報告・議論がなされた。

第1セッションの各国代表による報告の内容は次のとおりであった。中国交通部のZhang Wen氏は道路ネットワーク、道路輸送の発展状況を紹介し、2010年、2020年の道路ネットワーク整備計画を発表した。北朝鮮代表である対外経済協力推進委員会のHo Yong Suk氏からは羅津～元汀道路の建設に関して2002年1月の中国側専門家によるブレ・フィージビリティスタディーを基に同年2月に意見交換を行い、建設コストと利便性を考慮しながら建設ルートと建設方法を検討していることが紹介された。また、資金調達という課題をいかに解決していくかが北東アジアの輸送ルートの整備、そして北東アジアの発展の鍵を握るとまとめた。最後に、羅先地域は隣接する地域との協力関係を強化していくことを強く望んでいると述べた。モンゴルインフラ省のAuysh Togosbold氏は道路、鉄道、航空といったモード別に整備状況を紹介し、図們江地域開発の成功に向けて、モンゴル東部の鉄道・道路施設の整備を進め、そのルートをモンゴルのゲートウェイとしての機能を持たせたい考えであることを強調した。韓国建設交通部のJo Jae Hong氏は韓国の輸送ネットワークの現状を紹介し、2020年までのネットワーク整備計画を発表した。ロシア極東海洋・設計・技術研究所のYaroslav Semenikhin氏は輸送インフラ設備の建設・改善と国境通過に関して現状と将来のプロジェクトを述べた。

第2セッションでは、ESCAP運輸・観光部のBarry Cable氏からこれまでの調査及びウランバートルでの関係者会議の結果に基づき、北東アジアにおける道路ネットワークにおける優先プロジェクトが報告された。道路プロジェクトとして17ルートを提案し、その中でも政府レベルの専門家会議で取り上げるべき優先プロジェクトとして羅津～元汀間道路の建設、ウランバートル～チョイバルサン～イルシ～長春～羅先地域のネットワークの早期構築を挙げた。これについては各国代表が同意し、プロジェクト実現に向けて取り組んでいくことを確認した。

今回は主に道路プロジェクトについての議論であったが、道路・鉄道・港湾をすべて統合した形で輸送ネットワークを考えていくことの重要性も指摘された。これに対して、ESCAPはERINAが取り組んでいる9本の北東アジア

輸送回廊ビジョンは各モードを統合した形で作成されており、相互に協力をしながら調査を進めていく準備があることを紹介し、総合的な輸送ネットワークの構築に向けた各国の協力を求めた。

最後に第3セッションで図們江地域の人とモノの国境通過の問題について話し合いがなされた。手続きの簡素化・標準化の議論に加えて、一つのビザで図們江地域3カ国を訪問できる、あるいはビザなし交流の可能性なども話し合われた。特に、北朝鮮代表から図們江地域におけるビザフリーシステムの構築が提案されたことは注目された。ビザの問題に関しては今後も各国・地域間で協議を進めていくこととなった。

また、モノの移動に関してはTIR条約（国際道路輸送手帳による担保の下で行う貨物の国際輸送に関する通関条約：Transport International Routier）も話題に上った。これはトラック輸送による国際輸送を容易にすることを目的とする条約である。同条約の加盟国間では、封印されたトラックで輸送される貨物（コンテナを含む）に関しては、經由国税関で税金の支払いや貨物の中身の検査の必要が無く、貨物を通過させることができる。これは多国間輸送の促進という意味で非常に重要な取り決めである。ロシア、モンゴルが既にこの条約に加盟しており、中国の条約加盟が待たれるところである。

このセッションでは、円滑な国境通過の実現に向けて、メコン川流域諸国の国境通過の取り決め例などを参考にしながら、今後も二国間・多国間で協議を継続していくことで合意した。

この地域の輸送ルートの整備といった問題を考える上で重要なことは、各国で話し合い、各国政府が共に認める共通の優先プロジェクトを明確にし、その整備に資金を集中させること、多額の資金を必要としないが非常に高い効果を得ることができる国境通過に関する問題を解決していくことであろう。今回の会議では、その2点についての議論が中心となった。この会議で合意を得た優先的な道路整備プロジェクトの実現、また国境手続きの簡素化・標準化の実現や今回提案されたビザフリーシステムの構築に向けて、UNDPの調整のもと各国の積極的な取り組みが期待される。